

チューリップの花芽分化状況について(8月 14 日現在)

令和 8 年 8 月 18 日
経 営 普 及 課
(農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センターのチューリップ花芽定期観測結果から、今年の花芽分化及びノーズの伸長状況について主要 3 品種のデータを紹介します。

1 供試球根

農業総合研究所園芸研究センター本場（砂壤土）産球根

品種（系統）	掘取日	調査サイズ	初期乾燥	貯蔵
プレルジューム（T）	6 月 10 日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵
イルデフランス（SL）	6 月 10 日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵
メリーウィドー（T）	6 月 10 日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵

2 花芽分化の状況

- （1）現時点で 3 品種の花芽分化段階は、平年に比べ 1～2 段階程度早く進んでおり、ノーズ長は同 3 週間以上早く伸長している（表 1、図 1）。
- （2）品種別の花芽分化段階は、プレルジュームとイルデフランスでは調査球のすべてが柱頭分化完成期（G3）に達し、平年に比べて 1 週間程度早い。メリーウィドーは内雄ずい分化期（A2）～柱頭分化完成期（G3）に達し、同 3 週間程度早い（表 1、図 1）。
- （3）平均ノーズ長は品種により 3.9～6.5mm で、いずれの品種も平年と比べて 3 週間以上早く伸長している（表 1、図 1）。
- （4）本年は 6・7 月ともに高い気温となったため、花芽分化のタイプは、6 年連続の「障害発生型」に当てはまるものと推測される（図 3）。促成切り花栽培では、ブラインド、奇形花等の花器形成障害の発生に注意が必要である。

3 年次別りん片含水率（7 月 10 日定期調査）

花芽分化開始条件の一つであるりん片含水率は、メリーウィドーで 57.3%、プレルジュームで 55.5%、イルデフランスで 56.9%と、いずれの品種も平年に比べてやや低く、水分の抜けは良い（図 2）。

4 今後の技術対応等

- （1）花芽分化の進展は、今後の気温等によって変動が予想されるため、促成切り花栽培に向けた冷蔵計画の策定に当たっては、必ず花芽を確認し、無理のない計画とする。
- （2）近年、夏季の猛暑が常態化していることから、年内切り花出荷を予定している球根では、調整等の準備が整い次第、中温処理（冷蔵庫内で 20℃涼温管理）を行うことが望ましい。その際は、エチレングスによる障害を防止するため、腐敗球の除去を徹底し、十分な換気に留意する。

5 具体的データ

添付ファイル「T260814data（花芽）」参照

※ 2026 年花き生育情報（チューリップ花芽分化）は、今回で終了します。